

キャプテンを支えたAll for oneの一年

第35期

保善戦で惜敗した我が千歳高ラグビー部は、平井監督3年目の年として新たにスタートをきった。

以下、3年生のメンバーの特長を紹介しておこう。主将は斉藤宏、昨年WTBを務めた斉藤誠の弟である。入学時はアメフトの方がいいとかいって、兄の誠がやっていた手前もあり、兄弟共にラグビー部といわれるのがいやだったのか入部までに少し時間を要した。その彼がラグビーにはまり、今やラグビー部の主将としてチームを引っ張ることになる。兄のやわらかい身のこなしでステップをするのとは対照的に、瞬発力のあるスピードで思いきったタテで相手の裏にでるプレーヤーであった。副将は、中村綱利が選ばれた。昨年の東京代表候補のプロップである。178cm、92㎏の恵まれた体、中学時代バレー、ボールをやっていたこともあり非常にバネがあり、従来通りの体さえでかければ、スクラムさえ強ければいいのとは訳がちがう。走れる、おせる、バテないのまさに3拍子そろったバランスのいいプレーヤーである。

FWリーダーは佐藤 洋。ポジションはフランカー。口数は少ないが、基本に忠実に仕事をする好プレーヤーである。タックルにさらに磨きをかけ、ラストシーズンにかける。

BKSリーダーは佐藤 臣司。洋と同様佐藤だが口数は多い。だが、有言実行型、持ち前の要領のよさ、柔軟性のある動き、キックセンス抜群な実戦向プレーヤーである。恵まれた体格でポイントをつく攻めをする、横、斜め、縦、と変幻自在のコースを走り、相手を抜き去る思い切りのよさは抜群だ。後に青山学院の一本めのセンターとして5年間活躍した。

No.8は、矢野和朗。彫りの深い顔立ちはさすが芸人の卵で高卒後は演劇を志し俳優座にすすみ、今も活躍中。

タフさ、スピードにおいてはこの男がピカールであった。ラグビーにける貪欲さはずばぬけて、キック、パス、あらゆるスキルに非常に意欲に取り組んでいたが、みんなからは少し違うといつも言われていた。

WTBは昨年からの斉藤智がつとめる。走ることは別に嫌いではない。抜群のスタミナを持っていた。ただ、長距離型の筋肉型・プレーに山がない。スピードの緩急と力強さに課題を残していた。昨年の夏合宿では平井監督のすすめもあり、練習時間中、終わりまで3〜4個のボールをかかえ、指の感触を確かめつつグラウンドの周回走に専念したことを思い出す。この経験を今年につなげ、パワーアップをはかりたい。

以上、バラエティに富んだ3年生が今シーズンにける。しかし、都予選の道のりは決して平坦なものではなかった。新人戦は目黒とお手合わせ。負けはしたがまずまずの出来。その後の玉川学園との練習試合で主将の斉藤宏が鎖骨を折るアクシデント。その後副将の中村が主将代行となる。関東大会1回戦は専大付属、6対10で惜敗。この借りは絶対かえそうと皆心に誓いあった。そして地獄の山中湖での夏合宿。主将の斉藤宏は完治して皆をまとめ上げる。

そして9月半ばから始まる都予選までの練習試合、又しても同じ玉川学園戦で斉藤宏は鎖骨を折った。本人にとってもダブルできたアクシデントにつらかったが、チームとしても一瞬皆予選への戦力低下を意識せざるを得なかった。しかし、中村以下、佐藤臣司らが宏の11月の肩の完治まで、勝ち続けようと立ち上がる。ここから3年生のまとまりがでてくる。

そしてむかえた都予選1回戦、相手は又しても関東大

（ 第 35 期
同期生からのことば ）

マネージャーという名のもとに、共に涙し、歡喜した日々は一生の宝物です。50周年、心からおめでとう！

マネージャー 保坂京子

会1回戦と同じ専大付属高、全員必死に頑張った。
6対3で僅差ではあったが関東大会の借りは返した。
2回戦の豊島実業戦は、雨のどしゃぶりの中行われた。
6対4のままノーサイド寸前CTBとして出場して
いた斉藤智は相手を乗り越えようとした際、足が相手の
プレイヤーの股をけったとレフリーがみなし、豊島実業にペ
ナルティを与えた。豊島実業はすかさず攻める。攻めた
際ノット10mをとられ、ずるずるとゴールまん中まできてし
まう。ここはねらおうと相手を選択。これを相手がツール
を決めれば逆転されてしまう。
しかし、いつものキッカーをケガで欠いていたのか、蹴る
者がいなかったのか、おまえが蹴れ、いやおまえだと相
手がおめ始めた。やっどキッカーが決まり蹴ったが、ボー
ルはポストのバーの下をくぐった。はずした。そしてノー
サイド、辛くも逃げきった3回戦。高島高戦は相手校E7
部内トラブルにより不参加の為、不戦勝。運も実力のうち。
そしてむかえた4回戦、準々決勝、相手は早大学院戦。
2年生には後に早稲田のフルバックで活躍した安田が
いる。攻守ともにバランスのとれた強豪だ。斉藤宏が完
治してかえてきた。今まで、古巣のセンター
よりSOを務めてきた佐藤臣司は動かさず、そのままSO
に斉藤宏はフルバックとして出場した。
OBの見守る中、必死に応援したが実力の差はいか
んともしがたく、0対82で完敗した。
しかしながら、斉藤宏の2度にわたる鎖骨骨折のアク
シデントにもかかわらず、3年生が1つにまとまって11月ま
で勝ちつづけた事は一生心の財産として今も語り継が
れている。